

## 当院における新人教育研修について

濱田 実和、町田 清正、中島 康仁、西川 昌伸、進藤 聡子、山田 祐一、茶谷 昇、  
東山 孝二（松下電器健康保健組合 松下記念病院 中央臨床検査部）

【はじめに】近年、臨床検査を取り巻く状況は厳しく、新人技師が基本的な技術、知識について教育を受ける機会は少なくなっていると言われていいる。今回、私が入社 1年目に受けた臨床化学検査での教育研修を紹介し、研修で学んだこと及び感じたことについて述べる。

【研修目的】自動分析装置や測定試薬の性能評価を行い、装置、試薬の特性について学ぶ。また、日常検査項目についての基礎的・臨床的知識を学ぶ。

【研修内容】研修は次の4段階に分かれ行われた。

### 1. 正確性と精密性の評価方法

#### (1) 重量法によるピペット検定

#### (2) 自動分析装置および用手法の精密性の比較

### 2. 自動分析装置を用いた試薬の基礎性能評価

#### (1) パラメ-知作成（分光光度計を用いた測定条件の検策）

#### (2) 基礎性能の評価（直線性、最小検出感度、共存物質の影響、相関について）

#### (3) 検討結果についての報告書作成、部内勉強会での発表

### 3. 汎用機のマニュアル作成

汎用機の測定原理マニュアルを作成することで、汎用機の中身について知り、他人が見て理解できるような文書の作成術を学んだ。

### 4. 臨床化学項目についての勉強会

臨床化学の主な項目（17項目）についての測定原理や臨床的意義について学び、日常検査を行うにあたって必要な知識を増やした。

【まとめ】この研修を受け、自動分析装置をブラックボックス化することなく、精度管理やトラブル対応を行なっていく必要があることを学んだ。また、継続して勉強し知識を増やすことで、付加価値のある検査を提供することが大事であることも学んだ。当時を振り返ると、日常業務を覚えながらの研修であったため、両立することは難しく悪戦苦闘の毎日であった。しかし、与えられた仕事のみこなすのではなく、日々何か疑問に思ったことに対して積極的に取り組む姿勢が大切であること知った。今後もこの研修で学んだことを生かして日常検査業務に役立てたい。

連絡先 06-6992-1231